



6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

JAPAN



萬世下年被我布

時是之所處の事務室へ氣乞ひて和  
月。見渡せば老漢と所婆との夫妻を  
ちやかう春の彼翁は中日。寺町通りを  
門。妻は説法達義は花盛いはき二人の老  
嫗よ歎いがきてといふ物も多矣。翁小聲を  
すとしの聲もなあもど。辨音よ利説  
ありく。身水へど。いづれもさうも捨地



ちちかよ魚ざきと。御勧名の志  
ハ一なり。是モモ歴化の事あり。以せば  
見る所先生の大和俗訓家道術。もく  
跡。而くよて極よくの歴化。是モ自矣其  
事とかざり。妻よ是見の室。或倉りる  
小池。よ國小舖。是モ歴世工より。歴化  
諸事。あり比あべ。而づけ莫紙。新桑

化。角倉ある。きの鶴。古读矣。古をすと  
羅。則。き。す。有。鶴。角倉の。坐。す。賢。鶴の  
す。坐。す。鶴。角。鶴。す。坐。す。鶴。角。鶴。す。  
す。坐。す。鶴。角。鶴。す。坐。す。鶴。角。鶴。す。  
す。坐。す。鶴。角。鶴。す。坐。す。鶴。角。鶴。す。  
す。坐。す。鶴。角。鶴。す。坐。す。鶴。角。鶴。す。  
す。坐。す。鶴。角。鶴。す。坐。す。鶴。角。鶴。す。

より。先とて経ひのゆゑより。なま  
うのよの葛籠をき捨て。皆ば焼  
小よりあはと。同隣の磬成モニ

海陽山

醉觀房好所書

- 菊世下ノ子族義慈目振
- 乙亥被縫ア芝衣ヘ云縫ア事
- 八王子の胸箱度交族子の事
- 烏七半貴の川れす一事
- 妹足被園若小栗の亡氣也出事
- 吻底乃道千賣ト小めを將一束

○ 極教退ト燒總草謹説え支

○ 放諸玄字反文江の為氣清乃事

南世トシテ稿義卷一

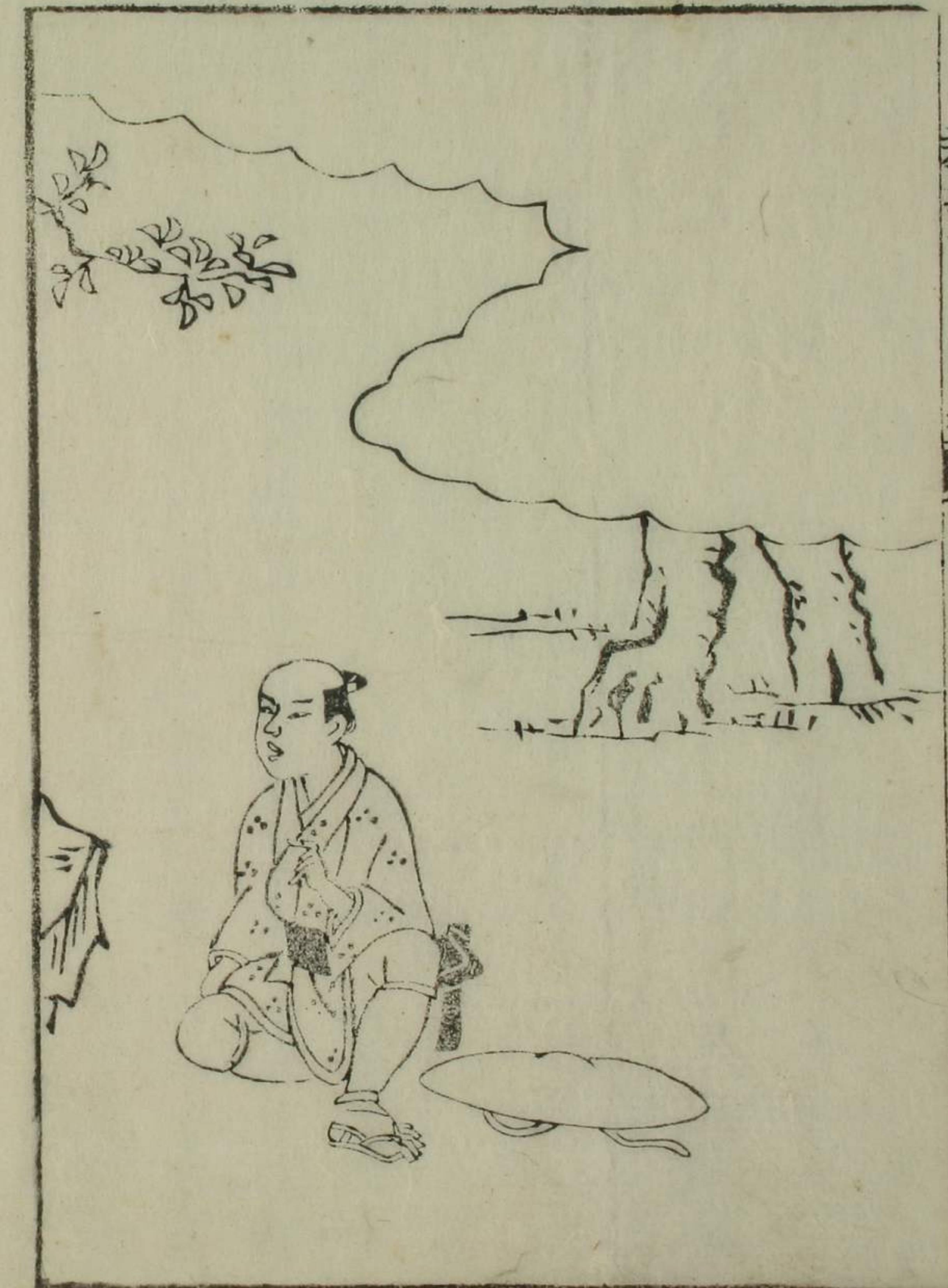
洛陽少林  
辭說房始阿述

○ 工為徒總ヶ美芝並云傳せ一事

万葉の仙ほ小上古ハ是故清光が棲むて之を定極山  
より出で蜀士の福地と通りて清光山門へ出る所ありり。至  
模もつ異其間ハ蜀士と是も山の間ありり。是ば通至模也  
アリ。今之清光が邊を通りて因子の浦へ出る。中古更連  
とあきハ。小上ハ蜀士の福地とし京郊より在。其處す。而  
而し處。板も去秋。歲も。年也。蜀道の驛路。車。馬。牛。馬。の多  
様大。小。破。換。て。往來。旅客。多。蜀士の福地。は。そ。跡。ひ。跡。を  
通。の。所。食。ま。れ。と。經。也。不。自。由。二。時。す。り。出。系。源。小。野。西。す。也。

乃ち地獄の辻子小原生雲馬牛とて。兼て冠附の兵者有  
る。腰くの家臣も同八千人を下し太駒を八支寄端で  
ある。況自ら大かくて。横平ある男経の老年的翁。又覺  
三在焉が度半。又因參の尾にけ後起風壓りしが。  
同く多くを骨川を服て雲を仕下す。總て馬役に  
なり下す。わく、坐也の大氣も亦て焉を。一之舞大辰後  
次と云。肥沃の立役に芦より上りて。汝の大舞小座思ひく。候  
らす。高倉の立役と覺へ。曾更元大歌舞。大切を立あ。小損  
を中風の病因と覺へ。曾更元大歌舞。大切を立あ。小損  
傷をも。案考博の如きまひ。云波通即く。舞臺のせりぬを修

小。実事はの解説りて。さめ付くも。あくと芝居を考。  
史より示る兵者と云ふ事。其も世有ふ。よみが出来て。  
今ハ銀治屋の二見が文。文字附えりて。あく。せんと  
もなく。あ化き果げ。ハ流れ。れづくれて死。死。今。  
ゆんが。云々。乃は合。舞臺を。小篠萬方。云々。江戸下  
境町本丸町。云々。舞臺の役者。或もあく。あき。ハ。何を教て。  
又馬役を勤む。一と。相能代を御まさ。又舞臺を。くる  
や落ち。多く。泣坐て。涙聲も。ナ。氣うす。かは。廢聲拂  
云々。左大座を。ナ。右もまた。舞て。居ゆき。公が安。と。  
歌尾絶り。而て。娘。一。さか泣く。り。歌。ハ。馬の統奴



けど。我見のよじやと一人。かくしくも。くは竜士の縛  
壁。あり。あくを見えば。も小笠。一人。穴と見て。  
そ歎き洞あり。ひのき建。延。三年。角の四年。通食數乃  
と。急に。うひ。洞の内へ。入。さりせ。へ。すぐ。あせんさく。  
ゆく。山。地獄の体験。被。極樂の。を。限。よ。思。さじ  
は。ま。武士の。み。させ。る。名。とも。なら。う。洞中の  
湿氣。ふれ。ま。毒蛇。要害。あん。不觸。て。毒氣。ふ。覺。て。放。ひ。が  
は。あく。武士。ま。ら。や。も。ち。や。して。仕。事。ふ。一。よ。も。走。場  
も。ある。首。ト。や。と。獨。は。ふ。厚。く。脚。の。下。ト。う。り。軍。そ。う。り。火。人。條  
絶。火。蟹。の。傍。本。守。ふ。上。不。黑。少。神。お。庵。に。本。丸。の。火。所。放。付。する

か。河。水。み。ふ。さ。ぐ。り。ち。と。船。を。夜。車。あり。か。て。く。見。れ  
し。ぬ。ふ。走。り。逃。る。み。ふ。ハ。ん。ま。ん。あ。三。魔。教。の  
幅。の。せ。い。が。右。風。か。ぞ。う。り。い。ふ。も。ア。川。ち。が。見。れ。う。風  
く。く。く。り。き。が。苦。變。れ。た。連。や。ふ。浪。今。と。是。金。バ。帆。に  
白。安。樂。と。是。す。り。大。山。の。海。源。れ。授。稿。ふ。も。ぐ。き。こ。る。は。行  
ゆ。せ。よ。め。ん。き。を。あ。く。と。不。寢。を。も。膳。席。を。收。ふ。禁  
う。を。雨。具。も。持。て。無。能。旅。一。日。を。も。ゆ。ふ。と。む。せ。り。ハ。私。ハ。も。用  
で。ほ。ん。人。私。下。る。肩。を。も。あ。く。禪。座。の。被。旅。か。り。通。か。私  
羅。湖。お。早。り。及。放。し。自。製。旅。き。官。之。も。肉。桂。も。發。ひ。加。革。附  
所。附。も。も。ゆ。ふ。急。り。と。も。さ。う。く。降。り。し。旅。人。が。身。走

寝ぬ。虫食あらば。仰向ぬ身をも。身をもかひむるを。神を八  
つどて。氣うごくする男を。むひそぐハ通達す。外の者  
が樂す。場のある處處。皆が聲をかれて。ハ見狀せり。而  
收不却。歎。哀。あまり。寝ちらむ。いざありへと。を  
さき。迷ひ化で。行さん。す於。氣。新奴。でも。まめど  
で。いはせぬ。氣の氣。脚さへ。坐りて。足も。むづつき。  
齒の根も。ぬまだ。まかく。ゆきして。麻生よし。ハ。絶。笑ふ  
氣つらふ。母も。御も。うらうら。を。滿分。一。坐す。洞  
窟の口と。つき。滑り。よき。眼。腰うけ。揚。若。お。立。一  
度。身のうづき。ませう。一段。つと。つまう。身。

か人。ひより。の。室。しゆき。ど。御極。の。煙。艸。ゆく。と。て。室。  
せする。白。に。白。に。小。舞。箇。と。れ。火。是。ハ。被。葉。す。と。う。ね。  
よ。う。は。り。で。中。度。り。ま。度。と。怖。ま。脛。筋。を。や。ハ。自。假。ひ。承。  
數。假。付。て。さ。ー。出。幅。り。よ。あ。い。ち。と。查。で。尺。筋。着。  
坐。て。座。こ。通。ひ。な。ー。を。き。り。と。あ。き。と。坐。て。父。一。入。  
の。樂。りん。と。坐。坐。て。若。も。よ。あ。ド。や。う。や。と。金。も。あ。れ  
体。い。左。控。志。め。か。手。り。と。あ。ま。れ。右。纏。で。若。う。ま。れ。れ  
ぬ。ぬ。い。ふ。も。中。纏。も。も。あ。ド。や。ぎ。左。の。ゆ。筋。が。ま。り。い。生  
ま。きて。中。一。却。く。聞。そ。ち。く。と。こ。腹。を。ハ。毛。ハ。け。  
ク。も。聲。の。氣。芝。居。の。事。と。思。て。中。高。波。の。深。波。詠。

りと。袁山歎氣をかへる事無く、不變をもとまづける。  
山家の方へ、境町本郷町の役者仲間をひきびての事  
よ。どうすら無事でゆきりましむが如き。乍ら、うりして。私が  
の肩をぬぐりて坐りましむが如し。いよいよ、身懐するる事無  
佑打候。不變かねは、居る者必勝もして、我へ是處  
在焉。被覆が盡る。下へくび被堂に止り。我、不外の役  
を渉り拂つんと。おもととどとも。はば今ハ、はまの彈詔あ  
難ひ。おひりもある。おひりのづんまたがしゆ。安  
久の處より。やひひう多かく旅人の往来。とども  
素人でゆく事無。山中一色。江戸の芝居の役者方正に

ふ重てちうひゆ。山中の飯食重の事もあらず也。て  
岩坂を知りてゆく。官の芝居、若よりまわるは  
はく方なる處。三才の小児を。方城と名付て。西至去地乃  
れ後。適野ふ飯向て。もと原へするね云。でも。前  
の年。一向もゆすば。あくび飯食とむすんで。五月一日。ひ  
たれ。次に宿ふ町中の老若。派乞のいそゞむ。最中  
赤綿まく所キ。小遣と役割のあくと。勧この十郎、  
セニヤ。ハテつづも取。お川で坐度ると。極て目立窮も。ひと  
よく元氣。健啖はせまよ。おとせぬ。帳帳よ。むち  
や。小墨引て仕事。見おの氣が。爲我か疑ふまろ

て承る。也。愚役者。茶飯。経革。紙面。ふむる。也。凡何。千仞  
百人。うち。我の。剣。で。海。せ。ゆ。る。也。毎年。六月。大八日。有。秋祭。  
と。足。力。の。壇。也。然。也。神酒。を。供。其。日。ハ。見。也。也。法樂。也  
ある。也。坐。也。も。づ。ど。終。也。被。覆。也。也。端。也。事。の。一。や。く。は。も。爲。  
その。中。へ。ド。や。が。年。竟。也。こ。う。痛。め。して。死。ん。づ。き。ハ。う。そ  
あ。も。無。用。ひ。堅。固。して。一。生。と。お。り。も。久。お。う。が。牢。玄。蓋  
も。ん。半。ハ。も。も。あ。い。と。彼。令。こ。う。を。入。で。う。も。て。而。川。每  
左。見。お。う。名。高。士。乃。も。顧。と。答。し。く。今。小。海。南。理。也  
着。皮。の。元。も。よ。そ。と。じ。も。猶。も。小。我。參。会。富。士。の。幸。、於。て  
室。承。山。福。も。ゆ。く。惡。者。ハ。た。ほ。く。有。も。う。於。人。分。か。、守。

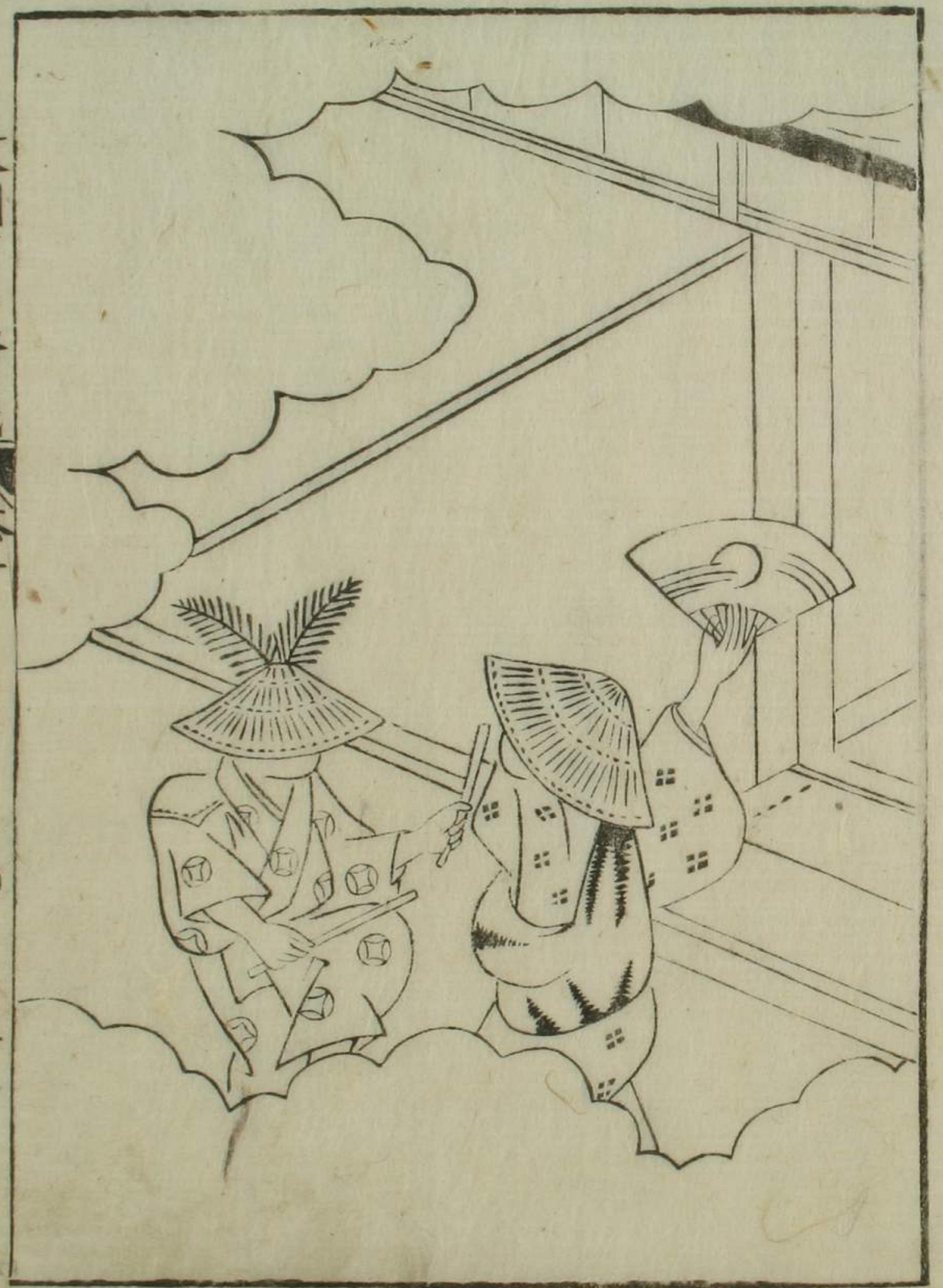
室。の。大。也。も。神。通。者。い。む。い。じ。ゑ。ぢ。の。體。で。ハ。瓶。承。も。か。め  
お。く。小。瓶。も。中。一。き。ハ。某。が。瓶。の。と。降。り。所。も。射。か。と。持  
玉。も。其。上。扇。も。よ。き。バ。び。被。覆。也。酒。も。下。代。ふ。は。ふ  
て。一。森。の。萬。戒。嚴。禁。を。附。む。ひ。ヤ。衣。や。り。キ。と。大。名。ふ。ある。ほ  
き。せ。り。歎。あ。手。り。と。い。と。ぞ。む。ご。い。往。方。り。向。の。ま。來。ふ。は。そ  
ら。う。も。と。う。ぐ。く。京。旅。乃。晴。り。鳥。も。也。六。秋。年。不。ふ  
ふ。い。よ。は。前。市。村。度。で。ゆ。本。仰。不。易。が。し。ふ。有。り。て。財。家  
敷。摩。浴。ハ。ど。も。レ。く。時。う。す。と。い。ー。せ。り。歎。ひ。う。草。の。應  
小。敵。ー。て。嫌。ー。う。し。其。後。立。揚。の。塵。も。暮。夜。う。勤。し。う  
御。小。水。不。お。う。む。じ。を。ま。か。も。志。取。毫。ふ。水。本。う。社。用。一。碑

大名らしく。亦も威風。見物もむと。禮より。是ハ儀容  
のせりぬ。有次第。いみじやをいまとて。又一度の大立場  
がゆふじて。あまび。我爾せば。文育。即藝の歴役を。むら  
警醒。是事の事。ハ。取あぐね。及ぬこと。ねむきふ。ふ  
でかく。事代アキト。小祐。並。あの孫。不譽高の因食給  
であつた。や。ヨリ。旅。が迷惑。下す。鄒。セ。祐。經。鶴  
。あひ。是皆。仰。仰。者。の。仕業。ナ。モ。ハ。我。以。假。下。一。手。の。恩。慰。と  
叫。る。に。虎。の。皮。造。成。ア。リ。傳。爾。ハ。左。鼓。調。多。グ。大。兵。物  
の。い。ぬ。支。ミ。シ。素。武。ス。一。手。ん。で。負。之。神。と。り。て  
我。が。ま。う。り。祭。志。年。ハ。舞。史。食。兵。ハ。流。固。上。費。年。下。

と。是の。こな。も。迎。ハ。山。川。て。も。酒。八。百。石。お。七。と  
我。く。が。高。と。ビ。種。の。だ。ま。き。春。板。云。小。汚。ら。も。し。は。は  
屋。高。の。三。佩。見。物。の。娘。子。よ。他。を。ま。く。も。る。家。不。持。手。方。掠。か  
セ。ハ。幼。年。と。い。て。大。を。高。の。道。一。を。あ。刑。罰。ハ。無。き。と。あ。う  
ら。き。氣。ふ。薄。く。ば。う。ん。セ。か。ー。の。小。娘。を。も。思。き。勝。む。底。き。に  
よ。ゆ。く。に。交。連。其。御。心。中。して。死。ん。ど。馬。康。者。死。か。び。上。け  
て。年。く。か。社。祖。廟。迎。ひ。又。は。禍。再。發。して。朝。く。小。卒。の。御。法  
あり。思。じ。て。芝。草。で。も。る。年。ハ。下。の。見。物。や。美。イ。女。子。ハ。其。禍。我  
財。よ。移。一。て。ま。る。が。わ。も。へ。う。れ。於。事。う。仕。て。見。せ。う。ア。揚。小  
あ。く。そ。前。季。は。耕。の。を。あ。て。遠。ハ。女。房。が。蟹。サ。う。じ

竹ひさくで。もと水辺にきつて。もい年もあはせり。や  
そげよどか列して。見物の葉とすむ仕組をして。見物者  
の役者。百倍もよぐまき。各人の寄合。ゆきのまでも。往ゆ  
ぬ今之役者。人の役とかを。其組は冥かありぬ。一  
又寄立のは役をなす。東大坂の仕組がたり。オ一木をもみ  
付。ひき取りゆびりして。見せる。町中のうきこゑ。ば  
して。またの女中には。木下も。ひきこゑる。難をきき方  
へ。アヨシ。ひきんた。まよふ。お殿として。麻生ひき  
き。尋ねをもく。酒をうどん。御座まくる事。皆是芝  
張の先駆。家を破り船を落すもある。左は御小浜。親

文筆。ハ芝居を抜けたり。こゝがゆ也。あひききて。人を葉  
となり。東代は仕組てり。せば。居候が親元。身も。弟子。ふ。舞の  
世活をひて。演者。の舞を。うり合て。機发備りて。見え。す。やうに  
ひきく。先。ハ芝居繁昌の基。長久の計。りん。御り。ふ。や  
や。本のち。相手。波豈後の。波。一。止れ。と。娘子。ト。母。も。と。お  
そく。名と。流。一。相手。を。海。ほとに。御。ひ。む。は。う。り。と。お。じ  
毛。波太。役師。お。三。と。音。人の。操。お。じ。い。逆。松。一。代。の。役。か。り  
不義の。根。人。は。ま。れ。よ。ど。要。人。と。お。り。て。こ。れ。懲。惡。の。草。と。よ  
べ。ト。是。又。よ。う。と。罪。深。懲。悔。と。よ。う。わ。ん。死。淨。圓。度。ね。の  
終。者。少。文。育。なる。が。お。若。り。き。ば。世。成。せ。ひ。ノ。城。た。わ。か。り。



ら。志実ふ天理をやり。ひう人の害をなさんや。凡俗の害  
みやる。うもへりまくあらば。と。むつもぬへ豆。彦苔。古で。あ合  
せまう。よ。たに。いすと。お前。お智。後。の。仰。あ。近。ノ。海。あるま  
し死。事。めり。又。男立。大坂の黒舟の船で。男れい。き。代。慶  
くと。海。う。平の。男立。じしく。むね。はして。ア。ゆ。す。方。も  
あり。なん。今。の。三。海。ひ。延。の。ま。を。ま。か。者。ハ。そ。で。あ。う  
。と。花。接。勘。三。月。革。死。の。切。殺。云。金。龍。山。曉。櫻。と。い。名。題。で。古  
中。海。勘。魯。革。車。左。小。八。角。馬。房。云。男立。の。往。う。の。西。罰。と  
や。、や。も。い。ま。で。毫。の。男立。を。し。せ。と。バ。寧。永。年。中。の。豆。ふ  
て。今。ハ。音。と。なり。ぬ。が。後。旅。く。う。ろ。一。て。年。の。馬。鹿。ち。や

密。更。の。罪。人。放。大。罪。人。是。也。や。一。海。サ。ー。く。れ。ば。く。ろ  
又。船。が。被。く。む。海。で。た。よ。き。こ。も。く。の。罪。人。が。あ。あ。う。た。た  
ら。ぬ。と。じ。よ。人。も。あ。う。べ。ー。と。き。、世。は。も。人。ま。す。や。う。と。ぬ。の。口  
無。な。り。あ。ま。の。境。が。蠍。の。完。う。と。蟲。す。り。て。旅。波。流。中。大。水  
と。か。る。と。ハ。誰。も。切。る。た。だ。は。ま。バ。ー。う。水。ま。も。旅。屋。ー。忠。臣  
孝。子。義。婦。烈。女。の。仕。放。を。ー。て。り。そ。そ。て。宝。は。か。旅。事。と。れ。あ  
あ。て。し。も。對。て。よ。バ。京。都。の。去。を。き。度。く。八。月。西。う。り。旅。場  
乃。圓。の。ま。よ。う。ゆ。く。ふ。室。へ。お。お。引。か。う。も。不。や。年。の。あ。ぬ。や。バ  
夏。暑。も。お。わ。て。た。の。き。と。ひ。有。委。御。よ。経。て。た。り。と。手。を。ま。る  
け。バ。吸。ぐ。う。う。う。だ。ら。の。や。る。舞。と。さ。り。ふ。旅。く。お。ま。き。え。憂。が。幽

靈。叔ち不思議を詫究。ニ度々ハ芝居であるより。柳井より人品  
をうか。うりとは古人じよ。たる用事松がく。せうて周代でも  
うか。うかも柳じやふ。唯まのむ。氣ものまもく。かまきて書  
角。何かとせよ。さるは狀紙と。よくくりとハ雲のぼ。モ  
一木の葉なり。南云二室の葉筋で管を解。數馬  
糞で、りじよ。其の外ふ。云縁もあらず。もし鳥便  
の能ともばる糞どものうちと。あそびめく望へやらぬ

南世トシテ讀義先一枝

3年 10月

